

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902660		
法人名	有限会社 こばやしさんち		
事業所名	グループホームこばやしさんち		
所在地	北海道旭川市東光16条6丁目2-19		
自己評価作成日	令和3年10月31日	評価結果市町村受理日	令和3年12月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyCd=0172902660-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyCd=0172902660-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく楽しい心豊かな生活」と言う目的に向かい、日々利用者様の体調を伺いながら季節を感じられる食事・部屋作りをし天気の良い日には気分転換に散歩や骨粗鬆症予防の為になる外気浴に力を入れている。コロナ禍の為、リモート面会を取り入れ利用者様とご家族様の絆が希薄にならないよう努めている。1人1人が出来る事を継続し生活の中で機能を低下させない様に配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地にある1ユニット定員6人のグループホームである。周辺に小学校、中学校、スーパーやコンビニエンスストア、飲食店があり、利便性が高い。同一法人のデイサービスや小規模多機能事業所、有料老人ホームが近接し、行事を合同で行うなど相互交流がしやすい。建物は居間を中心に居室が配置され、前面道路に面したベランダを華やかに飾り、潤いのある雰囲気としている。感染症流行前は法人のお祭りに地域の方が参加したり、ボランティアや中学生の訪問を受けるなど、地域との交流が活発であった。現在でも、散歩で出かけた際や移動スーパーが来た際に利用者と住民が挨拶を交わすなどの交流がある。ケアマネジメントの面では、「フェイスシート」「私の姿と気持ちシート」などで利用者の暮らし方の希望を把握し、計画見直し時は詳細な評価を行い、きめ細かな介護計画を作成している。医療支援の面では、協力医療機関との連携体制を整え、看取りについても訪問看護師等による事業所のできる範囲の医療支援を行いながら、複数の看取りを経験している。食事の面では、介護度が高い利用者が多い中でも、利用者が下ごしらえや盛り付け、おやつ作りなど、できることを継続できるよう支援している。法人敷地内の畑でとれた新鮮な野菜も提供している。恵まれた生活環境のもと、いきいきと過ごせるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに掲示している理念を常に再確認しながら支援をしている。	開設当初に作った理念の中に「地域の方々に支えられ、安心して暮らせる」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を共有部分に掲示しており、ミーティング等でさらに共有していきたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年から各行事は中止になっておりますが、散歩の際等、町内の方との関わりを持っている。	散歩で出かけた際や移動スーパーが来た際に利用者と住民が挨拶を交わしている。感染症流行前は法人のお祭りに地域の方が参加したり、ボランティアや中学生の訪問を受けていたが今は中断しており、収束後に再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会室の新設で、見学や研修相談等を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。コロナ禍にある現在は書面にて行っている。	現在は2か月ごとの文書による開催となっている。運営報告が中心で、計画的なテーマの設定やテーマに関する意見交換は行っていない。最近の分の議事録作成や議事録の参加者への提供が滞っている。	運営報告の他に計画的にテーマを設定し、テーマに関する資料などもメンバーに配布して、文書で意見交換することを期待したい。得られた意見、意見や質問に対する対応についても議事録に載せ、メンバーに提供することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き当事業所の現状の様子、今後の予定をお伝えしている。	運営推進会議に市や地域包括支援センターから意見や情報提供を受けている。提出書類の作成で不明な点は電話で市役所に問い合わせしている。最近では感染症に関する設備や物品の整備について役所に相談し、手続きを行った。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備しミーティング会議等で介助方法を確認し拘束をしないケアを実施しているが、離設の可能性がある方が1名おり、玄関に施錠をしている。家族様、他の入居者様のご家族様に説明、理解を得ている。	身体拘束を行っておらず、年4回の委員会と、年2回以上の勉強会を行っている。委員会議事録や勉強会資料を見やすく整理し、禁止事項に関する職員の理解を進める方針である。玄関を施錠しているが、利用者の外出希望があれば一緒にベランダに出たり、周辺を散歩するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のミーティングで虐待にあたる事が無いか話し合っている		

グループホームこばやしさんち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料等を用意し改正された事柄や制度についてミーティング等に取り上げ勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度文書で通知、説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会日等に時間を作り、気持ちや意見を聞きミーティング等で共有し議事録を各家族に配布する。	感染症の流行により利用者と家族の面談はできていないが、管理者が月に2回程家族に電話して利用者の様子を伝えている。家族とのやり取りを「支援経過」に記載して共有している。2か月ごとにホーム便りを作成し、家族に提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のグループホームミーティングで職員間で意見交換やケアについての相談を行っている。	月1回のミーティングを行い、活発に意見交換している。職員は管理者や代表者にいつでも相談できる。職員は行事企画、食材仕入、備品購入、感染対策などの業務を分担して運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、わずかではあるが、昇給している。年2回の賞与と、年1回の決算手当は支給されている。又、資格の取得に伴い資格手当も支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの数が少ない為、個々の技量の差は目立ちがちだがサポートしあいながら介護にあたっている。また日々の業務の中で有効なケア方法などアドバイスしあっている。外部の研修については掲示板に案内を貼り出し参加希望があれば、シフトの調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍なので、インターネットで交流しています。地域包括圏内交流、その他の集まりに参加し情報を収集し繋がりがりながら助け合い質の向上に務める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を把握した上で入居者様とのコミュニケーションを取り少しでも不安な気持ちを無くす様に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様の普段の生活を連絡した際に、家族様が不安に思っている事等を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の方は現在のGHの内容を説明、必要であれば他のサービス事業者の案内も行っている。入居後は安心して生活できるようにADLに合わせた日常生活の支援を中心に行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の可能な範囲で家事に参加してもらい一緒に日常生活を営んでいる。(調理の下準備や洗い物、食器拭き等)		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	多忙の為、面会に来られない方や相談したい事がある場合は電話にて連絡を取り利用者様と家族の関係が希薄にならないよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢になっている為、馴染みの友人が来居する事は無いが、御家族、親せきの方々が、面会に来られる。コロナ禍の為、リモート面会を行っている。頻度は異なるが、来て頂いている。	友人や知人の来訪は難しいが、友人から年賀状が来る利用者や、親戚とリモートで面談した利用者もあり、関係継続できるよう支援している。周辺に運営法人の関連施設が多くあり、合同食事会で他の施設の利用者や職員と顔馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はホールで過ごしていることが多く、穏やかに交流されている。		

グループホームこばやしさんち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もお礼や書類等の相談で訪問を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動など情報収集し、把握に努めている。また日常の言動からでは理解が困難な方には家族からの情報を取り入れ、把握に努めている。	ほとんどの利用者は思いや意向を表現でき、難しい場合も表情やしぐさから把握している。フェイスシート、私の姿と気持ちシートが整備されているが、より定期的に更新していきたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集を行い職員で話し合い情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で常に観察を行い、変化があれば記録に残し申し送りで全員が把握できるように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで担当職員のモニタリングをもとに、2名ずつカンファレンスを行い、見直しに役立っている。	介護計画を3か月ごとに見直し作成している。モニタリングシートに沿って職員が意見を出し合って計画の評価を行っている。見直し時の会議録も整備している。個人記録の様式に計画目標を予め記載し、目標項目を意識しながら記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有の為、日常の変化があれば記録に記入するよう全員で心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	敷地内に小規模多機能、有料老人ホーム、訪問看護があるので相談、情報交換を行っている。また、他部署で催しものがある際は参加させて頂いたり交流を持っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域資源は行えていないが施設内にて季節を感じる行事を行い楽しむ事が出来る様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に事業所のかかりつけ医が主治医となる場合が多い。他科の受診はコロナ禍もあり管理者が行っている。その際、NSからDrに手紙を書いて状況を伝え、帰宅時に受診結果を記録している。	協力医療機関による月2回の往診があり、利用者全員が受診している。その他の通院は家族または事業所で送迎している。往診、通院ともそれぞれの様式で受診記録を作成している。	

グループホームこばやしさんち

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の介護ケアの中で異常があれば看護職員、主治医と連携し適切に支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時には、医療関係者と情報交換し退院時にはグループホームで安全な生活が送れるようにしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて入居時に説明を行い、入居後に重度化の兆しが見られれば担当医、看護師を交えて話し合いを持つ	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針内容」を説明し、契約書と一緒に署名捺印を得ている。ここ3年間で2名の看取りを行い経験を積んでいる。医療機関との連携体制を整え、事業所でできる範囲の支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は担当医看護師に連絡を取り、職員は指示に従う			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。コロナ禍にある為、町内会の役員、民生委員は参加していません。	年2回を目処に昼間を想定した避難訓練を行っている。最近は地域の方の参加、消防署の直接指導、夜間想定を組み込んだ訓練が十分行っていない。法人内で職員の救急救命訓練を行い、災害時に必要な備蓄品も準備している。	地域の方の参加、消防署の直接指導、夜間想定を組み込んだ訓練の実施を期待したい。また、地震や水害等、火災以外の対応についてマニュアルを作成し、職員間で話し合いの場を持つことを期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライド、人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応に努めている	接遇、マナー研修を実施し、ミーティングは利用者の昼寝時間帯に行って利用者には内容を聞かれないようにしている。職員の意味ではなく本人の意向を尊重して支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思伝達が可能な利用者様には、なるべく自己決定を促し、対応している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	介護度が高い方が増え1人1人の希望を優先するのは困難だが、家庭で生活するようにのんびりする時間は大切にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	適時、職員が理髪店の支援をし身だしなみにも気を配りながら支援している。			

グループホームこばやしさんち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備、盛り付け等は利用者様の出来る範囲で手伝って頂いている。	食材会社の献立を参考に、畑で収穫した野菜など旬の食材を取り入れた食事を提供している。毎月行事食を計画し、ちらし寿司や海鮮丼、利用者と一緒にパンやピザ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の1日の水分摂取量、食事を記録 担当医、看護師に相談しながら個々の量、形態、などを調節している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行う(義歯洗浄、舌ブラシ、歯磨きシート)、夕食後に義歯洗浄剤に浸け置きしている 全介助～自立見守りまで個々に対応している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時でトイレの声掛け誘導を行っている。夜間はオムツを使用している方も日中はリハパンを使用しトイレで排泄出来るようにしている。	「水分・排泄記録」に全員の排泄状況を記録している。個別の排泄間隔や活動の変わり目で声かけをしてトイレで排泄できるように支援している。昼夜で使用する排泄用品を変えて、自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の程度に合わせて下剤を調整。数日排便が無い方には座薬使用。排泄表で排便の有無をチェックしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の人数が限られている為、入浴は週2回定期とさせて頂いている。入浴出来ない方には、清拭にて対応している。入浴日以外は足浴をする。	月・木の午前中に入浴を行い、可能な限り浴槽に入れるように支援している。好みの湯加減で歌をうたったり職員と会話を楽しんでいる。温めたタオルを頭に掛けて温泉気分を味わうこともある。入浴を拒む時は声かけを工夫して入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、それぞれのタイミングに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が見られるよう処方箋を個人ファイルに綴り服薬状況を把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室内での行事(食事)・天気の良い日はベランダでお茶会をし喜びを持って生活して頂けるように支援している。		

グループホームこばやしさんち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人的な対応はコロナ禍の為難しいが、暖かい日には近所の散策やベランダでお茶会・食事の支援を行っている。	春から秋は、車椅子の利用者も一緒に事業所や近隣の畑、庭を見ながら日光浴を兼ねて毎日散歩している。庭でコーヒーを飲むこともある。車窓見学で神楽岡公園の桜を鑑賞したり神居古潭に林檎を買いに出かけるなど、感染症流行の中でも外出する機会をつくっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、現在は買い物行事は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を心掛けており、自宅で生活しているような環境づくりに努めている	玄関を入ると、食卓テーブルや窓際のソファで寛ぐ姿が見える造りになっている。日めくりや時計、職員が描いた利用者の似顔絵がさり気なく飾られている。お正月に撮影した利用者の着物の写真もあり、家庭的な温もりが感じられる。年間行事に合わせて職員と一緒に装飾を制作し、季節感を採り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべくホールで過ごして頂き、それぞれが思い思いに過ごせるよう食卓やソファなど好きな所に座って頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使われていた家具等そのまま使われている方が多く、家族からのプレゼントを飾ったりと思いの空間が出来上がっている。	居室の間取りに違いはあるが、歩行しやすいように全居室に手すりを設置している。使い慣れたタンスや机、ベッド、仏壇などを持ち込んで過ごしやすいように配置している。家族の写真や職員と制作した折り紙作品を飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行しやすいように手すりを設置したり、つかまり歩きし易い位置にテーブルを配置する等の工夫をしている。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホームこばやしさんち

作成日：令和 3年 12月 5日

市町村受理日：令和 3年 12月 9日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営報告の他に計画的にテーマを設定し、テーマに関する資料等もメンバーに配布して、文書での意見交換をする事が必要。得られた意見や質問に対する対応についても議事録に載せメンバーに提供する。	運営推進会議の中で、研修を組み込む。また、その都度テーマを決めて高齢者虐待防止・身体拘束・感染症に関する研修をして行く。意見交換をしていながら議事録の作成をしてメンバーに提供する。	会議の案内状に議題や研修内容を記載し資料を見て貰い意見や質問などを寄せて頂けるように工夫をする。そして内容を記載した議事録を作成していく。	2か月
2	35	地域の方の参加、消防署の直接指導、夜間想定を組み込んだ訓練の実地が必要。また、地震や水害等、火災以外の対応についてマニュアルを作成し職員間で話し合いの場を持つ事が必要である。	消防署の直接指導・地域の方の参加をお願いし昼と夜の避難訓練を行っていく。地震や水害等のマニュアルを作成し会議などで職員間の話し合いを持つ。	12月15日運営推進会議を開催する事としその後夜間設定の避難訓練を地域役員の方に参加して頂く事になっている。地震・水害のマニュアルは作成済みである。今後、職員間で話し合いを持っていきます。	1か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。